

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市殿下小中学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

殿下幼小中学校家庭・地域・学校協議会

家庭	地域	学校
P T A会長 (1)	自治会連合会長 (1)* 公民館長 (1)* 社会福祉協議会長 (1) 学識経験者 (1) (兼児童クラブ指導員) 地域おこし協力隊員(1)* うららの殿下委員会委員長(1)*	校長 (1) 小中学校教頭 (2)

*地域コーディネーター (4名)

(2) 協議会の内容

- 第1回・・・ 6月29日
- ・スクールプランの説明
 - ・教育活動の現状報告
 - ・地域行事等との連携
- 第2回・・・11月9日
- ・教育活動の現状報告
 - ・学校評価(中間)の報告
 - ・授業参観の高評
- 第3回・・・2月15日
- ・学校評価結果の考察
 - ・次年度の教育活動

(3) 協議会における成果と課題

子どもたちの学校での様子を紹介するとともに、学の教育活動への理解を深めるため、学校のホームページ上のブログ掲載を頻繁に行った。また、子供たちが作った殿下テーマソングを用いた動画作成とYoutubeでの発信を行うことで、学校が地域を大切にしていると認識する保護者が増えた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

児童生徒が地域の人々と共に、自ら企画・提案した体験学習やボランティア活動を行うことで、ふるさと殿下への誇りや愛着を育み、次世代を担う地域の一員としての自覚を高め、殿下地区のために貢献できる人材を育成する。

(2) 活動の実際

① 桜まつりでの雅楽の演奏と「殿下テーマソング」発表 (小学生～中学生)

殿下地区に長年伝わっている雅楽の練習を、児童生徒たちは続けてきている。地域で行われる「桜まつり」で練習の成果を発表するとともに、殿下地区の見所パンフレットの配布や「里ちゃん」どら焼きのブースを設け、殿下地区や殿下キャラクターである「殿下の里ちゃん」のPR活動を行った。

また、昨年度作成した殿下テーマソング「DENG A」の披露もおこない、今後地域や学校行事等で地域の方々に親しんでほしいと伝えることができた。



【雅楽の演奏】



【テーマソング「DENG A」の披露

(様式3)

② 商品販売やパンフレット配布、動画制作などの殿下PR活動（中学生）

殿下地区を活性化させたいという中学生の思いを受けて、今年度も引き続き、殿下地区の農産物を使った商品の販売を通して、殿下地区をPRすることにした。地域コーディネーターと話し合いを重ね、地域の方が、他の特産物販売を行う機会に合わせてPRしていこうということになった。まずは、ハピテラスで行われている「わたしのマルシェ」で販売した。今年度、仁愛短大生の協力もあり、殿下地区のPR動画も改善した。当日は会場で上映していただき、PR用パンフレットの配布とともに、殿下の魅力を発信することができた。

秋のしし肉（猪肉）が取れる時期に、しし肉コロッケの販売を計画し、地域の他の団体とともにJA福井市喜ね舎で、里ちゃんどら焼きとともに販売した。

また、春に披露した殿下のテーマソングに振り付けをし、学習発表会で地域の方々とともに、ダンスをした。その活動を発展させ、児童生徒が出演したPR動画を作成し、今後のPR活動で活用できるようにした。YouTubeにも掲載している。



【ハピテラスでの商品販売】



【殿下のPR動画】



【喜ね舎での商品販売】

（3）特に工夫した事項

- ・中学校の生徒がPR活動の企画を考える段階で、地域コーディネーターの方々だけでなく、地域の他団体の方の意見をいただく機会を設定し、生徒が行うことと、地域の方に協力していただくことを生徒がまとめられるようにした。
- ・小学校の野菜作りの際には、公民館の協力により、地域ボランティアが活動しやすい計画を立てることができた。

2 地域コーディネーターについて

（1）地域コーディネーター（4名）

地域おこし協力隊、「うららの殿下委員会」会長、殿下公民館長、殿下地区自治会連合会長

（2）地域コーディネーターの活動概要

- ・野菜づくりや花づくりの苗植えや収穫の指導をしていただいた。
- ・生徒が立てた殿下地区PR商品の企画に対するご意見をいただくとともに、商品開発、販売に積極的に関わっていただいた。
- ・殿下地区で活動されている各種団体と学校との橋渡し役をしていただいた。

3 成果と課題

自分たちが住む殿下地区を少しでも活性化したいという思いで活動を始めて4年目となった。この間、子供たちは地域の方々と協力しながら殿下キャラクター「里ちゃん」をつくったり、殿下PRのための商品を開発・販売したりするなど様々なことを実践してきた。その結果、故郷を愛する心や自己有用感を高めたり、企画力やコミュニケーション力等を育成したりすることにもつながった。一方で、児童生徒数が減少していく中、子供たちが今後、活性化事業にどのように関わっていくのが課題である。